

令和2年5月18日

文化部の皆さんへ

4月1日、本校への赴任早々、吹奏楽部の皆さんの練習を見て回ったことは放送で実施した始業式の校長講話で触れました。

そこでのトロンボーンパート3人の生徒さんとの会話。



私：こんにちは。今度、藤高に来た校長の田村です。

トロンボーンパートの生徒さん（以下T）：（元気に）こんにちは！

私：大学の時、オーケストラでトロンボーンを吹いていたんだよ。トロンボーンはいいよね！

T：とてもいい音で好きです！

というような会話から始まった会話の中で、彼女たちにこのように聞いてみました

私：トロンボーンは和音が素敵だよね。ところで、ドミソの「ミ」はどう吹くのかな？

T：（3人で顔を見合わせて、その中の向かって一番右側の生徒さんが）少し低めに吹くときれいに響きます！

私：そう、そのとおり！すごいね！

T：（3人とも顔を見合わせてにっこり・・・）

普段とても密度の濃い練習をしているのでしょう。彼女たちの会話から、楽しみながらなおかつ充実したパート練習の様子が想像できました。

そんなことを考えながら、もうはるか昔、これも始業式の時に触れましたが、私が所属していた大学オーケストラのトロンボーンパートでの練習のことを思い出しました。

彼とは入学以来、学部の4年と大学院の1年間ずっと隣で楽器を吹いていました（トロンボーンは「天使の楽器、和声」といわれるように素晴らしい和音が作れます）。医学生だった彼の譜面台の横には、ある時は骨の教科書、またある時は血管の教科書が並び、得も言われぬ練習風景でしたが、これだけ長く一緒に吹いていると、お互いのクセがわかり、この和音の時は大体こんな感じ・・・，というようになっていきました。彼と吹いたいろいろな曲、そしてその練習風景は自分にとってとても大切な思い出となっています。

4月26日のインターハイ中止の報道に続き、「文化部のインターハイ」といわれる今年の全国高等学校総合文化祭高知大会が、「web上での発表・交流の開催とする」旨の発表が5月12日にありました。どのような形での開催になるかは今後の発表を待つしかありませんが、過日申し上げた運動部の皆さんへのメッセージと同じく、文化部の皆さんにも同じことを申し上げたい。

これまで皆さんが積み重ねてきた時の重み、様々な経験や思い出は必ずやこれからの皆さんを支えてくれます。また一緒に和音が作れる日が必ずやってきます。それを信じて「今ここ」を乗り越えていきましょう。

久しぶりに、彼の声が聞きたくなりました。まだ、楽器を吹いているだろうか？